

ご挨拶

プレイドライブ編集長

伊藤 忍



若者のクルマ離れ、これに伴うモータースポーツ人口の減少は、日本の自動車文化及びモータースポーツ文化の発展に、多大なる影響を及ぼしています。39年間続けて参りました弊誌プレイドライブも、その影響から07年6月30日発売の8月号を持ちまして、休刊のやむなきに至りました。

しかし休刊後、わずか1ヶ月の間に全国のモータースポーツ愛好家の皆様より3000通を超える復刊嘆願のご署名をいただきました。まさに断腸の思いで決断いたしました休刊ではありますが、皆様の熱いご支援を賜りまして、復刊の方向を模索して参りました。

本来、出版物とはその出版分野における文化の担い手でありませぬ。一度その重責を降ろしてしまいました弊社ではございますが、商品構造は元より販売方法も見直しまして、その重責をもう一度担いたいと考えております。モータースポーツのなかでもグラスルーツと呼ばれるラリー、ダートトライアル、ジムカーナを素材とした雑誌は、モータースポーツ文化の発展においては欠かせぬ存在であることを肝に銘じて復刊に当たる所存です。

私達も応援します

ASEA部会長

高瀬嶺生氏



「プレイドライブ誌」復刊の報に接し、お喜び申し上げます。「プレイドライブ誌」は、我々の製品をご愛用いただくユーザーの方々への的確な情報提供、またユーザーの皆様との励みとなる競技会結果報道を担う媒体として、約40年の長きにわたり、その責任を果たされてきました。復刊のあかつきには、そうした責任を引き続き果たされ、参加型モータースポーツを活性化し、文化を育んで行かれることを節に願っています。

2007年PWRCチャンピオン

新井敏弘氏



私がラリーを始めたころの目標は「プレイドライブ誌に載ること」でした。いい成績を出し、掲載され、さらにヤル気がわいてきて……。その繰り返しで今の自分があるような気がしています。そうした意味で、私を育ててくれたプレイドライブ誌が復刊するという事は、非常に喜ばしいことと思っています。プレイドライブ誌としては、モータースポーツに参加する人たちの気持ちを大切にして本作りに励んでほしいと思います。